



第 33 号

平成21年1月1日

〈発行〉
社江田島市シルバ－
人 材 セ ン タ ー

江田島市江田島町中央1-15-15
江田島市シルバ－ワークプラザ
TEL (0823) 42-5211
FAX (0823) 42-5051



シルバ－奉仕ディ (平成20年10月18日)

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様にとつて、健康で希望に満ちた幸多き年でありませう、心からお祈り申し上げます。

シルバ－人材センター事業は働く意欲と能力のある高齢者に就業の場を提供することで、私達の住む地域社会に多大な貢献を果たしてまいりました。

さて、すでに我が国は、少子高齢化に伴う人口減少社会に入り、今日の活力ある経済社会を維持していくためには、高齢者が生きいきと働ける社会を作っていくことが、ますます重要となります。

国の再チャレンジ支援総合プランの一環として、「二〇〇九年度シルバ－人材センターの会員を全国で一〇〇万人」とすることが当面の目標として定められています。

当シルバ－人材センターでは平成二十一年度においては「中期基本計画」の基本目標の実現に向けて、様々な事業を展開してまいります。特に会員の増強、就業の拡大につきましましては、シルバ－人材センターの基本理念である「自主自立、共働共助」に基づき、会員、役職員が一丸となつて、この変革の時代を乗り切らなければと考えています。

皆様のご理解と更なるご協力をお願いして年頭のごあいさつとします。

理事長 風呂井 侃

新年のごあいさつ



新春のごあいさつ
江田島市長 田中 達美

新年明けましておめでとうございます。

シルバー人材センターの会員の皆様方におかれましては、明るい希望に満ちた新春をお健やかに迎えたいこととお喜び申し上げます。

このたび、任期満了に伴い退任された曾根薫市長の後任として、十二月五日に第二代江田島市長に就任いたしました、田中達美です。協働・改革・前進をスローガンに「持続可能な江田島市」実現に努めて参ります。これまで皆様方には、格段のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、わが国は他国に例のないスピードで高齢化が進んでおります。本市もその例外ではなく、高齢社会に突入しております。さらには、団塊の世代が大量に定年退職をするなど、変化する社会情勢への対応は、ますます重要な課題になってくるものと考えております。

このような状況の中で、健康で就業意欲の高い高齢者のニーズに応え、就業機会の確保・提供など、貴センターの果たす役割は極めて重要になってくるものと思っております。本市においても、活力を生み出すためには、「高齢者の元気づくり」

が大切であると考えております。会員の皆様がますます活躍できるように、地域社会の環境づくりに努めて参りたいと考えております。また、高齢者の就業対策の充実を図るための支援などに努めて参りたいと考えております。

会員の皆様には、これまで培ってこられた豊富な経験や知識を活かし、これからの高齢社会は、「我々が支える」という気概をもって、より一層充実した活動を展開していかれるものと、ご期待申し上げます。終わりに、会員の皆様におかれましては、安全就業を第一に心がけ、いつまでも現役で、また、ご健健でご活躍され、今年もより良い実りのある一年となりますことを祈念申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ
江田島市議会議長 上田 正

平成二十一年の年頭に当たり、江田島市議会を代表して謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様もご存知のとおり「社団法人江田島市シルバー人材センター」は、平成十七年四月に合併により新たに設立されましたが、各地域において活動されてきたという歴史を誇る、江田島市にとりましても自慢の組織です。

現在では、シルバーといえれば誰もが「安心」「信頼」というイメージとともにシルバー人材センターを思い浮かべるほど名前も市民に浸透しており、これも歴代の理事長さん、役員さんをはじめ、会員の皆さんのご努力の賜と深く敬意を表します。

さて、世界に先駆けて高齢社会を迎えたわが国は、四人に一人が六五歳以上という時代を迎えようとしております。

江田島市議会といたしましても、高齢者の働く場の確保と福祉増進に向けて、一層の努力をいたす所存であります。その一方で高齢者自身も社会に参加し、社会を支えていくという姿勢が重要であると考えます。

こういった社会状況の中で、シルバー人材センター会員の皆さんが、長年にわたり培われた技術と経験を生かして、自主・自立・協働・共助を理念に、働くことを通して社会に参加し人生を積極的に生きる姿は、市民のよき手本であり、シルバー人材センターの存在意義は今後ますます大きくなるものと考えます。

終わりに、「社団法人江田島市シルバー人材センター」のますますのご発展と、会員の皆さんのご健勝を心よりご祈念申し上げます。



安全就業講習会に

出席して

平成二十年七月二十二日火曜日十三時三十分、市内鷺部公民館二階で救急処置と火災警報器の設置についての講習会がもたれました。出席者は五十六名。

風呂井理事長は

「七月は安全就業月間で全国的に運動がとりにくくなります。講習会のスロークンガンは『気のゆるみ、慣れと油断が事故のもと』で、安芸高田のシルバーセンターは農家の人が多く、草刈りは日常作業なので無事故です。『安全就業のためのチェックポイント』で熱中症にかからないためには度々水、塩分を取るとあります。そして休憩は風通しのよい、涼しい場所です。と記してある」と挨拶。

救急処置と火災報知器の設置について江田島消防署の須本係長が説明されました。この人の話はユーモアをまじえ大変わかりやすかったので、受講者は語りに引き込まれて熱心に聴いていました。

川端係長の説明によると、管内で一月から七月までの火災発生件数は、昨年は三十六件な



のに本年はすでに十六件発生しており、人口の割りに多い。救急出動は八百八十六件ありました。

次に、浜崎署員の説明によると、救急は

一、早い通報

二、早い応急手当（AED CPR）

三、早い応急処置

四、早い救急医療

救急処置で熱中症にかかったら涼しい所に寝かせ、水で冷やしてやる。救急処置の流れでテキストの五ページに記載されている（省略）

最後に出席者全員が「AED CPR」の使用法について実演して講習会は終了しました。

説明―AED CPR―

心肺蘇生法のこと、AEDは電気ショック、CTRは人工呼吸または心臓マッサージ。

シルバーの存在を示そう



十月十八日、シルバー恒例のボランティア活動。九時前に市役所に続々と集まります。

清掃活動開始にあたり、風呂井理事長が

「今日は全国のシルバーが清掃活動に参加しています。大勢の仲間の皆さんが参加してくれて喜んでます。最近、安全就業の目的を理解して作業が行われているので事故が少なくなっています。今日も安全に注意して作業をしましょう」

曾根市長は

「田中議長と一緒に作業します。シルバーは市になってますます重要な存在になっています。これから市民のためにつくしてください。今日は半日のクリーン作戦、安全に気をつけて市民にシルバーの存在を示してください」

田中議長は

「ゴミを一人が落とすと次々とゴミが捨てられる。きれいにしているとゴミはすてられない。鹿川の道路はきれいで気持ちがいい。江田島の道路が全部きれいになると来訪者ですががしい気持ちになってくれます。そのためにも少しでもお役に立てばと思つて参加しました」

加藤就業開拓委員長は

「昨年と比べると道路はきれいなっています。車の通行が多いのでお互いに気をつけて作業をしましょう。作業は高田、鹿川、江南方面の三つ、植込み中にゴミが落ちてくるようなのでよろしく願います。」と指示し、それぞれのグループがシルバーの桃太郎旗を先頭に出発しました。

高田に行く歩道わきにはゴミはほとんどありません。ただ側溝にタバ

コのすいがらなどがかなり落ちています。これを拾うとともに車道や歩道のわきに生えている草を引き抜きながら進みます。

鹿川方面では往路は道路の右側の清掃。ゴミはあまりありません。歩道と車道の境目に所々に生えている草を抜きながら進みます。復路は道路の東側をやりま

江南方面の道路や歩道にゴミはあまり落ちていません。ただ植えこみの中には紙くずやビニール等が結構あります。またつる草も伸びています。植えこみのきれった場所は草ぼうぼう。それを数人の女性会員が抜きとつていきます。「いつもここは草ぼうぼうですよ」抜く手を休めず話してくれました。「これで三袋めです。空き缶はほとんどありませんね」と話してくれます。トラックにはすでに五袋くらい積みこまれています。

十時前、市役所で解散集会。豊島副理事長が

「ご苦労さまでした。シルバーの存在を市民に示すことが出来たと思います。車に気をつけて帰ってください」

副理事長が

「ご苦労さまでした。シルバーの存在を市民に示すことが出来たと思います。車に気をつけて帰ってください」



い」と挨拶。参加者は曾根市長さし入れのジュースと事務局から配られたポーションを受けつつ帰路につきま

竹炭作業独自事業を始めませんか

平成十二年六月一日に始めて八年になり、その間二十六回窯に火を入れた竹炭を造りました。

この事業は県シルバー連合会の推薦もあり、そのうえ行政（県・町）も援助してくれ、山佐一雄、山佐勇、浜本達司、角川互助・竹本輝雄、柴本政幸、下野一彦、吉田正一、石田四郎（途中でメンバーに加わる）さんで焼いてきました。当時は独自事業として需要もあり、順調でした。

平均年齢七七歳で発足した事業でしたが、メンバーも八二歳を超え、高齢化したために事業（作業）を続けることができなくなりました。

同一組織内に大柿竹炭工房と二つの事業が存在するのは矛盾しますが現存し、運営形態も異なります。

若い会員が積極的にこの事業に参加してほしく、応募の呼びかけを掲載します。

多数の参加で事業を引き継いでください。

広いから手間がかかる

九月十六日、大柿高校の草刈りの現場を訪ねました。

「今日で三日目。四人来ています」と仲間一人が刈りとった草を熊手であつめながら、「シルバ－に入つたばかりで、シルバ－についてはよく分かりませんが、一生懸命やっています」と話してくれました。

私が訪ねた時は東側の校舎とフェンスの間の作業の最中。「草刈りの場所はここだけです」と聞きますと「校庭全部。フェンスの外側もやります。広いから手間がかかります」「校舎の周りは先生達がきれいにしてはくれますが、運動場までは手がまわらないようです」

空き地の奥では集めた草を軽トラに積みこんでいます。運動場では二人、所々に生えている丈の低い草を刈り払っています。「ミカンマラソンが十九日にあります。ここが集合場所になるのできれいにする必要があります。昨年は有森選手が参加してくれました。障害のある人も参加しています」と話してくれました。



急斜面は足場を確保して

九月二十六日、奥小路の水源地のほとりの草刈り現場を訪ねました。作業に従事している仲間は五人、堤防下の平らな所には二人、平地の左右の斜面では三人が作業をしていました。

東側の斜面は傾斜がゆるやかですが、西側の斜面は傾斜が急で、それに岩はだが出ています。

「足場を確保しなければ危なくて、なかなか仕事がかどりません」と作業の手を休めずに話してくれました。作業は管理棟のある場所から堤防にむかつての一带でかなり広い平地と南北の斜面の草刈りです。

「つじにまつわりついているつる草を取らないと木が枯れてしまう」つる草を抜きながら話します。

「岩場の作業では足場の確保が第一。それをしないとすべつて危ない」

「岩場の作業には危険手当をつけてもらわねば」と本音が出ます。

管理棟のそばに小さな池があり、鯉が泳いでいます。「水質の変化をみるために放してあるのです」と班長さんが説明してく

支える仲間

れました。

「正門の所からやってきて今日で四日目。まだまだかかります」

の言葉を後にしてそこを去りました。



飛ぶように売れた
チラシ・イナリズシ

飛ぶように売れた チラシ・イナリズシ

十月二十六日、青少年交流施設でもたれたフェスティバル江田島に三ヶ所の出店で参加しました。

二井事務局長、久保田、久留須さんは八時十五分ごろに来て出店の準備にかかり九時頃に終わったとのこと。

二階の部屋は「親子製作コーナー」の表示。中には手芸品が展示され、一か所は机を並べた製作コーナー。お手玉や鳩笛、竹トンボの材料が揃えてあります。お孫さんと一緒にの婦人が早速お手玉づくり。針の動かし方を孫の手をとって教えています。

広場の両側には手芸品と栗やミカン、竹炭が並べられています。七時半ごろに来て準備したとのこと。

広場の入口近くはイナリ、チラシズシ、トン汁などのコーナー。一パ

フェスティバル 江田島



ック二〇〇円とは安い。シルバ－会
員女性部は大声で「イナリおいしいよ、買って」と呼びこみ。知り合いには「〇〇さん買って」と誘います。来客は絶えず、中には三パック、四パックと買っていく人もいます。私もバック並べをしばらく手伝い、イナリ三、チラシ二バック買って会場を後にしました。



汗だくだくの重労働

—三高、浄水池の砂のとりかえ

十一月二十六日午前九時すぎ三高のろ過池の砂の取り替え作業の現場に行きました。

ろ過池のそばにクレーン車があり、黄色のヘルメットをかぶった人が作業をしています。最初はシルバードーザだと思いい「シルバードーザの方は来ますか」とたずねたら「私達です」との答え、ほっと安心しました。

ろ過池の水は昨日抜き、今朝から砂のかき出しのこと。

「池のこの黒い線のところまで砂があつたのです」

と池の中の一人が説明してくれます。「上のヘド口のたまつた砂は捨てま

す。そして下の砂を新しいのを取り替えるのです」

池の中に一、五メートル四方の木枠を置き、その中に取り出す砂を入れる袋を入れ、それにシャベルですくいとつた砂を入れます。

「今日は六人で来ました。私は上でクレーンで吊り上げられた袋をはず

して上手に並べ、新しい袋をフックにかけます」

吊り上げられた砂がいつばいの袋が貯水池側の平地にきれいに並べてあります。



われら町を

シャベルで砂を入れていた一人が「ほんまに重労働で、戦争当時は思ひ出すよ」

シャベルで砂をかき出している五人の仲間は汗びっしり、シャツが肌にくっついていています。

「この池は小さいので六人、大きい

池（三号池）は十二人でします」

「ここが終わると、来週から再来週にかけて鹿川浄水場に行きます」

「池の砂を全部取りきつたら新しい砂を入れ、その上に今とつた砂を重ねます」

と作業の手順を話してくれました。砂かきの仕事はしばらく続くよう

です。

「かぜをひかないように気をつけてください」

と挨拶して現場を去りました。

それにしても三高のろ過池は遠かつた。

毎週水曜日、

小用浄水場の砂の削り取り

九月十日、小用浄水場のろ過池の汚泥除去の作業現場を訪ねました。

私が訪ねた時には、ろ過池（池）の汚泥はすでに削り取られ、小型の

ダンプに積んであり、ろ過池内では三人の仲間が熊手を使って整地してました。

班長の八木さんは隣のろ過池の中を指さして

「こんなにアオサが生えてるのです。小魚やエビもいますよ」

続けて

「ろ過池は六池、これを週に一回ずつ水曜日と九名で作業をします。大体一センチ程度の汚泥を取り除き、そのあと熊手で整地します。」

ろ過池の南側に汚泥をトラックに運ぶベルトコンベアが設置されています。掻きとつた汚泥は敷かれた板の上を一輪車で運び、ベルトコンベアに移します。

「二月になると、水を抜いたあとの砂が凍っていて大変です」

とは八木さんの弁。

作業用具の片付けが始まりました。一輪車を通すための板があげられ、

それに付いている砂を洗い流します。ベルトコンベアは水できれいに洗い、隣のろ過池の傍に並べます。

「汚れに砂は北側のミカン畑の下の置き場に運び、業者がそれを持ち帰ります」

つけ足して

「ろ過池に入る時には必ず靴を消毒します。出た時と同じです。また、この作業にかかる人は半年に一回必ず検便します」

と話してくれた八木さん

「これから泥を捨ててきます」

とトラックの運転席へ。私は皆さん



にお礼を言つてその場を去りました。

座談会

独自事業をどう発展させるか

十一月二十六日の午後、理事、監事の方に集まってもらいました。

司会は豊島副理事長、記録は下谷開会あいさつで風呂井理事長は、「急に寒くなってきましたね。ところで私は今、シルバーの理事、監事の役割について前の連合の事務局長に話を聞く機会を持つとと考えています。お手許にある元全シ協参事の竹内さんが中国ブロックで講演された「シルバー人材センター事業の展開及び役員の役割と心構え」の資料に目を通してください。

二井事務局長 松江での研修会のレジメには会の運営は理事、会員が力を合わせてやる。その中で特に理事が中心になります。事業活動の責任は理事にあり、新入会員には理事がシルバーの理念等について説明するなど。いま、一月に岡山の総社市のシルバーを訪ねて研修する予定でいます。

竹炭事業がいきづまっている

司会 まずシルバーの運営についてまた事務局の運営方法についてもふだん思っていることを話してください。

小松 独自事業の中にグランドゴルフはあるが竹炭が入っていない。竹

炭施設を作るために相当のお金が使われている。そしていま、会員の中で竹炭担当者として非常に心苦しい。**森合** 大柿も今までのようにはいっていません。パンフレットを作っている女性会に配ってもらっています。材料の竹は三年前のものがあるので今年は伐りにいっていません。今、不安に思っているのは来年度の市の予算がもらえるかどうかです。**澤岡** 売ろうとしても「家にある」と断られる。女性会は売らなければという気持ちでいます。**事務局長** 大柿竹炭工房は江田島とは運営方式が違いますね。いま、企画提案方式というのがあり、市と国（シルバー連合会）に企画書を提出し、補助金をもらうもので、岡山県の総社市ではチップをやっています。木材を処理するので市が補助してきます。またサツマ芋を栽培して焼酎工場におろす事業もあります。**上向井** 販路の確保が大事ですね。竹炭を作っているのを女性会員は知っており、売らなければと思っ



す。**小松** 大柿にしても江田島にしても税金をかけて作った施設である。若い会員さんがやってくれないか。**井川** 用途開発が大切なことだと思います。今、竹炭はどこに行ってもありません。大量に販売できる所はありませんか。**森合** 女性会から竹炭の効用を説明すべきだという意見が出ています。鉢植えなどに竹炭を使えばいいと思います。**八木** 竹炭を使えばムカデは防げますね。**森合** 売る時には個人の値段をつけるので高くなります。市も竹炭のことをよく考えてほしいと思います。**司会** 市と地域が協力しなければと



竹炭に名前をつけよう

上向井 竹炭には名前がついてい

すか。**森合** ついています。

上向井 ネーミングを考え、特色を前面に出してみるとよいのでは。ネーミングは大切だと思います。

森合 合併してから市のインターネットに載っていない。

野崎 先ごろ「青少年交流の家」で

販売を行ったが、竹炭には興味を示しませんでした。竹炭煎餅は売れました。健康志向のものがよく売れる。その点をマスコミを通して宣伝してもらったら。**小松** 効能を書いたら保健所から注意を受けました。むずかしい。**竹細工などは****野崎** 竹の箸などを作るのはどうでしょう。**理事長** 作る道具に相当お金がかかるようです。**森合** 中国産は十八本はいつて百円。人件費を考えたら対応できないでしょう。**理事長** 茶席で使う箸を作ったことがあります。私は今、学童に竹で箸とか茶碗を作るやり方を教えています。商品化するのには難しい。**森合** 講師がいれば竹籠などの作り方を教わり、籠を作って炭と一緒に売るのはどうでしょう。**理事長** 以前、別府から講師を呼んだことがあります。竹原に竹細工の職業訓練校があるので、そこに行つて学んでくれば出来るのでは。**山田** 大野ではシダを使ってを飾りを作っています。**司会** カズラがいいのでは。**理事長** カズラでは秋月に松脇さんがあるので講師をお願いしては。 **イベントで野菜や果物などと** **一緒に置けば**

司会 竹炭だけ置いては売れない



仕事の確保と後継者の育成を

理事 それに音、においがすごいので場所も考えねば...
事務局 事務所の前で野菜などを持ち寄ってフリーマーケットをひらくことは出来る。イベントでは綿菓子も必ず出して。朝市をやるのであれば会員に呼びかけ継続してやる。

司会 仕事の種類が少ない。また、仕事の確保も大切。市の仕事をシルバ－が受け持ったら。
小松 炭については特別委員会を作った。販路を開拓するとともに入会の呼びかけ

いが、野菜やミカン、柿などと一緒にしたらいいのではないか。
下野 一イベントで一番売れるのが野菜です。家で作った物を持ち寄って。
理事 むずかしいと言っているは何も出来ない。三次では空き店舗を利用して会員の造ったものを売っている。委託も含めて。これを参考に

をしたら。
理事 募集広告を広報誌に載せたら。江田島の竹炭を買ってくれたら。連合会のシルバ－フェアが無くなつたのも一つの原因と思うが。
井川 それぞれの分野に専門の人がいなければ事業は発展しないのではないか。一定の報酬を出しても置くべきと思う。
事務局 竹炭の将来を考えたら見切りをつけるべきかなとも思っている。
小松 設備を放つてもよいというのであればそれでもよいが、竹炭に代わるものがあれば、それにこの後の施設の使いみちは。
八木 盆灯籠がよいのではないか。特に若い人に教えて作るようにすれば。
事務局 後継者を育てるのが急務といえます。特に障子や襖など。
理事 表装を呉はやっている。これをとり入れたら。秋月で書道をやっている人が「あつたらいいのに」と言っていた。障子張りなどにつく人も増やすことが急務です。一般作業でもこのことが言えると思えます。退会した人に講師になつてもらい、新入会員に教えてもらったら。
八木 江田島では一般作業もギリ貧です。
事務局 退会はほとんど高齢が原因です。私は新入会員の入会時に、いまの会員は希望する仕事だけでなく他の仕事もしてもらっていると話しています。仕事と会員を増やすことを一緒にとりくまねばと思つていきます。それを会員一人ひとりが行う

ことが大切と思つていきます。
井川 以前行っていた術科学校の案内は。
事務局 自衛隊退職者のこともあつてむずかしい。市が観光ルートを作る。それにシルバ－が加われば。
八木 観光バスで直接校内に入らずに観光客が街の中を歩いて術科学校

互助会親睦旅行

互助会会長 加藤 孝右

10月28日(火)朝、宇品港に各地区からの参加者33名が集合。目的地の鷺羽温泉に向けて出発。
車内では、互助会からのビール等を飲みながら、女性添乗員の名スピーチで盛り上がった。倉敷美観地区では河畔の大原美術館に入る人や名所「ヤナギ並木」を散策して目の保養につとめ、午後は鷺羽山展望台に登り瀬戸大橋をバックに記念撮影。「ホテル備前屋甲子」は、高台にあつて部屋からの展望は抜群。真下は海、瀬戸大橋を眺めながらの入浴は最高。湯量も豊富で言葉では表現できない。夜の宴会では「カラオケ」で盛り上がり、二次会へと進む。

翌日の午後は、果物の女王「マスカット狩り」。食べ放題だったが、そんなに食べられるものではない。のを実感した。お土産として、一房を自分で取り、箱に入れてもらい童心に帰り、ニコニコしてバスに乗った。17時30分予定通り宇品港着。両日

とも天候に恵まれ女性参加者4名協力のもと有意義な親睦旅行であつたと自負したい。
来年も多数の参加を期待します。



の見学を行うようにすれば町に金が落ちるのに。
司会 活発に意見を出していただき、ありがとうございます。こういう機会をこれからももつてシルバ－の活動を盛り上げるようにしたいと思います。今日はどうもありがとうございます。これで会を閉じます。



高齢者の健康管理シリーズ 28

新型インフルエンザの予防

最近テレビでも話題になっている新型インフルエンザ。

このウイルスは従来のインフルエンザと異なり、免疫をもつ人がいないため大流行して、感染した人は重症化し死亡率も高くなると予測されています。ただ、それがいつ起こるかは現在のところ予測できません。

発生・流行前にできること

まず出来ることは、一般のインフルエンザ対策です。感染しない、させないためにマスク、手洗い、うがいが基本です。インフルエンザは感染者の咳やくしゃみ、つばなどに含まれるウイルスを鼻や口から吸いこむことによって感染します（飛沫感染）。

そのほか、ウイルスが付着した物に触った手で、口や目の粘膜に触れることでも感染が広がります（接触感染）。

飛沫感染、接触感染を防ぐためには、外出時にマスクの着用を心がけましょう。特に咳やくしゃみ等の症状のある人は他人にうつさないことも大切なエチケットです。マスクにはウイルスがたくさん付着するので、ガーゼマスクより、使い捨ての不織布マスクが良いでしょう。咳やく

くしゃみを押さえた手、鼻をかんだ手はすぐに洗きましょう。
また、日頃から外出後はせっけんを使って十五秒以上、手を洗い、うがいをする習慣をつけましょう。

飲んで歌って踊って食べて

互助会忘年会

十二月十二日の夕刻互助会の忘年会が能美海上ロツジで開かれました。

参加者は六十六名、シルバ－が合併してから最初の忘年会、会場の大広間はぎつしり料理の机が並んでいます。

互助会会長の加藤さんが

「六十六名の参加ありがとうございます。合併して最初の忘年会、年を忘れるつもりでいっぱい飲み、来年も頑張りましょう」と挨拶。

今年、物故会員に黙祷を捧げ、乾盃の後、しばらくは飲みながら食べながらまわりの人との話がはずみます。そうこうするうちにカラオケが始まりました。一番手は梅田さん、そのあと次々と歌い手が続きます。すると若づくりをした二人の女性会員が舞台上で踊り出します。

大流行への備え

もし、新型インフルエンザが発生した場合、物資の流通が停滞して生活必需品が不足したり、感染予防のために外出も控えなければならなりません。家庭では一人あたり二十〜二十五枚程度のマスクの備蓄や、通常の災害と同様に二週間程度の生活ができるように食料や水、日用品の備蓄をしておきましょう。

八時すぎに会を閉じましたが、会場はまだ使えるので残って飲み、歌う人もかなりいました。
G・S生

忘年会



事務局だよ

剪定講習会開催のお知らせ

お知らせ

剪定の知識・技能のレベル向上を図るため、次のように講習会を開催いたします。既に剪定作業に従事しておられる方、新しくチャレンジしてみたい方、多数ご参加ください。

一、日 時

平成二十一年二月十六日(月)午前
十時から二十日(金)までの五日間

一、場 所

シルバ－ワークプラザ

一、講 師

広島市佐伯区湯来町

造園業 宮内 民生 先生

なお、参加を希望される方は、二月九日(月)までに、事務局へご連絡ください。

訂正

シルバ－江田島第三十二号に掲載した、第一回就業開拓委員会の話し合記事「目安は一時間三十坪」を「目安は一時間三十平米」に訂正します。